

## 報 告 書

開催日時	平成 24 年 5 月 18 日 (金) 午後 7 時～午後 8 時 45 分	
開催場所	横田コミセン	
出席議員	挨拶 小松 眞	
	司会進行	菅野 広紀
	報告者	及川 修一
	記録者	松田 信之
	出席議員	佐々木一義、伊勢 純
参加人数	21 名	
主 な 要 望・提言等	<p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自力再建者に対する様々な支援(補助)制度があるが、先着順のような感じがする。 どこに家を建てるのか先が見えない方々がいるが、予算的に大丈夫なのか。</li> <li>・父子家庭に対する支援の拡充を議会として要望・提言しているようだが、母子家庭とどのように違いがあるのか。</li> <li>・高台移転とかさ上げ(盛り土)の作業を同時にスピードを持って行ってほしい。 戸建の再建を考えているが、作業の終了を待たなければならない。</li> <li>・高田町の 5 m のかさ上げに要する土の確保はどのようにするのか。</li> <li>・かさ上げや盛り土にするという復興計画だが、多額な予算を投じた土中にある下水道や上水道の施設を廃棄するのか。</li> <li>・陸前高田、一関間の自動車専用道路整備について、何か具体的なプランを持っているのか。</li> <li>・高田・住田間の道路の改修や拡幅を早期に希望する。</li> <li>・農免道周辺の山林造成後の土砂の流出が心配だが、対応や対策がなされているのか。</li> <li>・土地整備など復興に大きく時間がかかれば、人口の流出は避けられない。</li> <li>・何を一番先にするのかは様々だと考えるが、最も基本なのは住む「家」があること。 まずは住むところの確保が一番である。家があれば何とかなるし、住むところがないことは必ずや人口の流出につながる。住宅の整備を急務とすべきと考える。</li> <li>・児童、生徒のことを考えると辛い思いをする。遠くまで行って運動しているのを見るにつけ心が痛む。仮設生活の解消は市営・県営といった公営住宅の確保を意味するもの。スピード感を持って取り組んでほしい。</li> <li>・高齢者や独身の方々なども多くいるが、共同住宅や集合住宅といった工夫された住宅の予定はあるのか。</li> </ul>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自力再建をしようとする人に市は土地などの斡旋はしないのか。自分で土地を確保するのは難しく、年齢的にもローンも組めない。状況が大変難しことを理解してほしい。</li> <li>・「川の駅」に生産物を提供してるが、放射能による規制で大きな実害がある。安心して生産・提供ができるような対策を要望したい。特に「しいたけ」の生産者等は保証も含めた対応も必要かと考える。</li> <li>・交通弱者のことを思えば、バス路線の整備拡充やJR大船渡線の復旧とその代替等、早急に取り組んでほしい。大船渡市はBRTによる仮復旧に前向きな姿勢を示す中、陸前高田市としてのスタンスが甚だ明確とは思われない。</li> <li>・JR大船渡線について、本市と大船渡市では復興や代替手段の考えに相違がみられるが、基本的には大船渡市の考えに同調すべきである。また、時間がかかっても鉄道のほうが良いと考えることから、県が気仙沼から盛間の路線を買い上げ「三陸鉄道」としての復興を要望したい。</li> </ul>
<p>所 感</p>	<p><b>小松 眞</b></p> <p>復興の優先順位として、住宅の再建、生活・生業の確保が無ければ人口の流出が進行する。道路の問題、教育の問題などスピード感を持った取り組みが、どの地域においても早急な喫緊の課題として求められた。</p> <p><b>及川 修一</b></p> <p>横田コミセンで行われた報告会には、仮設住宅に住む町外の市民が多く見受けられた。</p> <p>やはり、高台移転、公営住宅の建設など、住む場所の確保についての意見や不安の声が寄せられた。</p> <p>印象的だったのは、仮設に住むご婦人から、自分たちが小中学校のグラウンドを占有していることで、子どもたちのスポーツ活動の邪魔になっていることが心苦しいこと、早くグラウンドを返してやりたいことが訴えられたことであった。</p> <p><b>松田 信之</b></p> <p>仮設で生活する方々が、予想以上に参加された。</p> <p>今後の生活再建等での意見が聞かれた。</p> <p><b>伊勢 純</b></p> <p>参加者のほとんどは仮設住宅から来られていた。住居に対する要望は強く、年齢が高い方々からは早く自宅を持ちたいという気持ちが伝わった。すぐできる可能な対応として、事業の途中経過を示すことが安心感につながるものと思う。事業の進捗状況を示す工夫が求められていることを感じた。また放射能の問題により、産直活動に支障をきたしている深刻な実態を伝えるご意見もあった。まずは実害には事業者側で補償をおこなっているので、市民側の個人まかせではない対応が必要であると思った。</p>

	<p><b>佐々木 一義</b></p> <p>住むところを早く決定し、進めて欲しい。</p> <p>高台移転は時間がかかるので、横田町・矢作町の平場に市が住宅地を造成し、自力再建を目指している人への支援ができないのか。</p> <p>国道340号の一部が狭いので、拡幅工事をして欲しい。</p> <p>農免道の境界の造成工事があちこちで行われているが、土砂災害に対する対策が見えない。しっかり管理してほしい。</p>
--	---

陸前高田市議会議長 殿

平成24年5月31日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成24年度議会報告会第1班

班長 小松 眞 ㊞